

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

| 実施自治体名 | 課題の類型1 | 課題の類型2 | 背景・現状・課題の詳細 | これまでの取組状況 | 左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組 | 本事業で達成する目標（アウトカム） | 目標の達成度を測る指標 | 現状の数 | 単位 | 本年度の目標値 | 本年度の実績値 | アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等） |
|------------|-----------|------------------|--|--|---|---|-------------|------|----|---------|---------|--|
| 293229_山添村 | ②学校と地域の課題 | 学校支援ボランティアの確保・育成 | 学校支援ボランティアの高齢化に伴う人材不足が課題となっている。小中一貫校に向けて、人員確保が必要である。 | ・学校運営協議会委員や地域コーディネーターの力で、新規ボランティアや後継者となる人材を確保する。 ・学校の取組や、コーディネーター・ボランティアの活動を発信する機会を増やすため、広報チラシを年2回発行する。 | 令和6年度にボランティアの人数を増やすことはできたが、子どもたちがボランティアの方と関わって豊かな経験を積むために、子どもたちに関わる方をさらに増やしたいと考えている。ボランティアの活動紹介と募集を兼ねたチラシを作成し、広報誌へ折り込んだり、学校を通して配布したりする。 | 学校運営協議会委員・地域コーディネーターからの声掛けや、ボランティアの存在や働きを周知することで学校に関わる人数が増え開かれた学校となる。 | ボランティアの人数 | 51 | 人 | 55 | 44 | 2 学校運営協議会委員や地域コーディネーターの声掛け等を実施したが、ボランティア数は減少となった。村の人口減少や高齢化などもあり、人を集めることが年々困難になっている。しかし、保護者も含め学校ボランティアの存在や働きに興味関心を持ってくださる人は増えているように感じている。 |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

○アウトカムの達成度に関する評価
 当該年度におけるアウトカムの達成度（課題の解決・改善の進捗度）を5段階の自己評価【選択肢】

- 05 本年度の目標値を大きく上回り、設定していた課題が解決した
- 04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた
- 03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた
- 02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる